

平成21年度 徳島県国民保護共同実動訓練の概要



平成22年2月6日

内閣官房
徳島県
鳴門市

目 次

1	訓練の概要	1
	(1) 目的	2
	(2) 実施日時	2
	(3) 想定	2
	(4) 主な訓練実施場所	2
	(5) 主な訓練項目	4
	(6) 参加機関	5
	(7) 訓練評価	6
	(8) 国民保護研修会	6
2	訓練の流れ（シナリオ）	7
3	主な訓練の内容	13
	(1) 災害等初動対応、傷病者搬送訓練	14
	(2) 多数傷病者受入れ、医療救護訓練	21
	(3) 避難誘導・避難所運営訓練	23
4	緊急対応事態対策本部等の設置運営（図上訓練）	29

1 訓練の概要

(1) 目的

国民保護法に基づき、国、地方公共団体、関係機関ならびに地域住民が一体となって共同訓練を実施し、国民保護計画の検証・確認等を行う。

緊急処理事態における関係機関相互の機能確認及び連携強化など、国民保護に関する対処能力の向上を図るとともに、国民の保護のための措置に対する国民の理解を促進する。

(2) 実施日時

平成22年2月6日（土） 9:00～17:00

〔 実動訓練 9:00～12:00 〕
〔 図上訓練 14:00～17:00 〕

(3) 想定

鳴門・大塚スポーツパーク（徳島県鳴門総合運動公園）内において、国籍不明のテログループによる化学剤（サリン）爆発散布事案が発生し、多数の死傷者が発生する。

さらに、テログループは鳴門市立図書館に人質をとって立てこもり、保有する大量のサリンを散布すると犯行を予告する。

(4) 主な訓練実施場所

ア 鳴門・大塚スポーツパーク（発災場所）

（鳴門市撫養町立岩字四枚61）

- ・ 化学剤散布テロに伴う検知、救出、救助、除染等
- ・ 除染前医療
- ・ 現地医療指揮本部の設置・運営
- ・ 現地調整所の設置・運営
- ・ 救急車とヘリコプターによる医療搬送



イ 健康保険鳴門病院（災害拠点病院）

（鳴門市撫養町黒崎字小谷32-1）

- ・ 化学剤暴露者に対するトリアージ、除染、医療救護



ウ 鳴門市立図書館（想定）

（鳴門市撫養町大桑島字蛭子山49）

- ・ テログループ立てこもり（図上訓練）



エ 鳴門市桑島サッカー場（一次集合場所）

（鳴門市撫養町大桑島字北の浜26）

- ・ 消防団及び自主防災組織と連携した避難誘導



オ 鳴門ウチノ海総合公園（避難所）

（鳴門市鳴門町高島字北679）

- ・ 避難所運営（救援）



カ 徳島県庁

（徳島県徳島市万代町1-1）

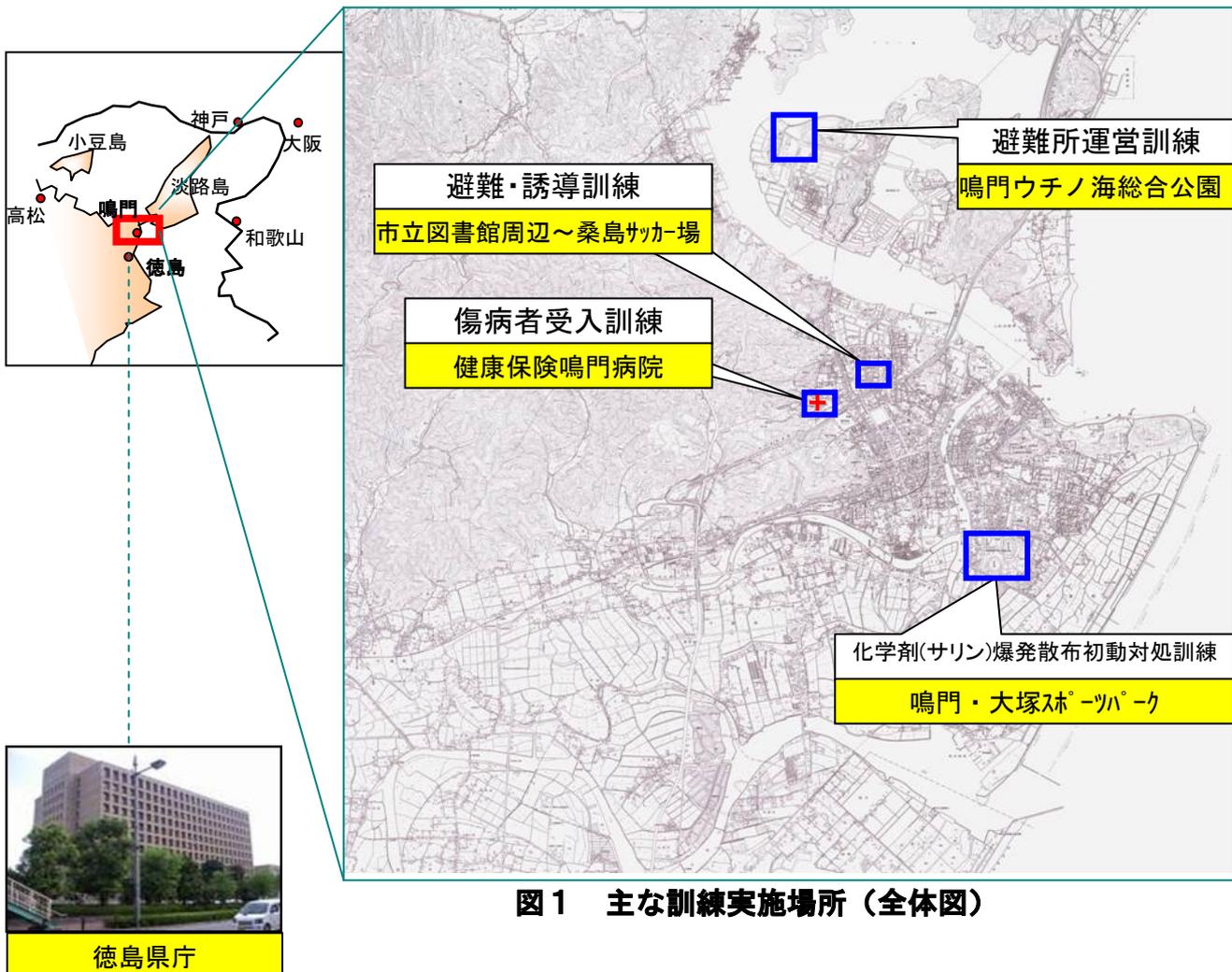
- ・ 緊急対応事態対策本部等の設置・運営
- ・ TV会議（政府、徳島県、鳴門市）、合同対策協議会



キ 総理大臣官邸

（東京都千代田区永田町2-3-1）

- ・ 徳島県庁、県内全市町村への情報伝達
- ・ TV会議（政府、徳島県、鳴門市）



(5) 主な訓練項目

【災害等初動対処、傷病者搬送訓練】

- ア ポカリスエットスタジアム（陸上競技場）における化学剤（サリン）爆発散布対処訓練
- イ 除染前医療訓練
- ウ 県内外のヘリコプターを活用した DMAT の搬送及び現場からの傷病者の搬送
- エ 医療指揮本部の運営

【多数傷病者受入れ、医療救護訓練】

- オ 健康保険鳴門病院における多数傷病者受入れ、医療救護訓練
（災害対策本部設置運営及び病院前トリアージ、除染、医療救護訓練を含む）

【避難誘導、避難所運営訓練】

- カ 消防団及び自主防災組織と連携した、要援護者対応を含めた住民避難訓練
（市立図書館周辺～桑島サッカー場～鳴門ウチノ海総合公園）
- キ 鳴門ウチノ海総合公園における避難所運営（救援）訓練

【緊急処理事態対策本部等の設置・運営訓練（図上訓練）】

- ク 関係機関間における情報伝達訓練
- ケ 緊急処理事態対策本部会議等の設置・運営訓練
- コ 官邸との徳島県庁とのTV会議、合同対策協議会運営訓練

(6) 参加機関

ア 主催者

内閣官房、徳島県、鳴門市

イ 地方公共団体

徳島県内全市町村（鳴門市を除く）、大阪府

ウ 指定行政機関

警察庁、消防庁、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、気象庁、海上保安庁、防衛省

エ 指定地方行政機関等

大阪管区気象台、徳島地方気象台、第五管区海上保安本部、徳島海上保安部、関西空港海上保安航空基地

オ 指定公共機関、指定地方公共機関

日本赤十字社徳島県支部、社団法人徳島県バス協会、社団法人徳島県トラック協会

カ 警察関係

徳島県警察本部

キ 消防関係

鳴門市消防本部、徳島市消防局、板野東部消防組合消防本部、板野西部消防組合消防本部、名西消防組合消防本部、徳島中央広域連合消防本部、鳴門市消防団

ク 自衛隊関係

陸上自衛隊（中部方面総監部、第14旅団（司令部、第15普通科連隊、司令部付隊化学防護隊）、中部方面航空隊）、海上自衛隊（呉地方総監部、第22航空群（第24航空隊、第72航空隊徳島航空分遣隊）、徳島教育航空群）、航空自衛隊（中部航空方面隊、航空支援集団）、自衛隊徳島地方協力本部

ケ その他関係機関

徳島県医師会、鳴門市医師会、健康保険鳴門病院、徳島赤十字病院、徳島県立中央病院、徳島県立海部病院、阿南医師会中央病院、徳島県立三好病院、徳島大学病院、JA 徳島厚生連麻植協同病院、四国大学、徳島文理大学、鳴門市自治振興会連合会、医療法人敬愛会南海病院、徳島県立看護学院、徳島県立看護専門学校、鳴門市自主防災会連絡協議会、鳴門市婦人防火クラブ、テレビ鳴門（ケーブルテレビ）、独立行政法人水資源機構、香川大学附属病院、社会医療法人財団大樹会総合病院回生病院、日本医科大学附属病院、大阪大学医学部附属病院（ドクターヘリ）、（財）日本中毒情報センター、独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）（順不同）

(7) 訓練評価

下記体制により、外部有識者による評価を実施する。

<委員長>	大阪府立急性期・総合医療センター副院長	吉岡 敏治
<委員>	神戸市消防局警防部 主幹	東 洋昭
<委員>	東京医科歯科大学大学院救急災害医学 教授	大友 康裕
<委員>	徳島大学環境防災研究センター 教授	中野 晋
<委員>	株式会社IHエアロスペース 顧問	福田 忠典
<委員>	鳥取大学医学部救急災害科 教授	本間 正人
<委員>	兵庫県警察警備部警備課 課長補佐	山本 弘一

(8) 国民保護研修会

一般の市民の皆様には国民保護について一層のご理解をいただくとともに、今回の訓練の円滑な実施及び訓練参加機関相互の認識の共通化など、訓練のより効果的な実施を図ることを目的として、訓練実施前に徳島県庁及び健康保険鳴門病院において国民保護研修会を開催。

ア 国民保護法制下のNBCテロ対策

(ア) 開催日

平成21年9月16日(水)

(イ) 場所

徳島県庁

(ウ) 講師

内閣官房 NBC災害対策専門官 奥村 徹



イ 大規模災害時における病院の役割 ～地下鉄サリン事件の反省点より～

(ア) 開催日

平成21年10月26日(月)

(イ) 場所

健康保険鳴門病院

(ウ) 講師

聖路加国際病院 救命救急センター長 石松 伸一



2 訓練の流れ（シナリオ）

表1 主な訓練のシナリオ

【 実 動 訓 練 （午前） 】

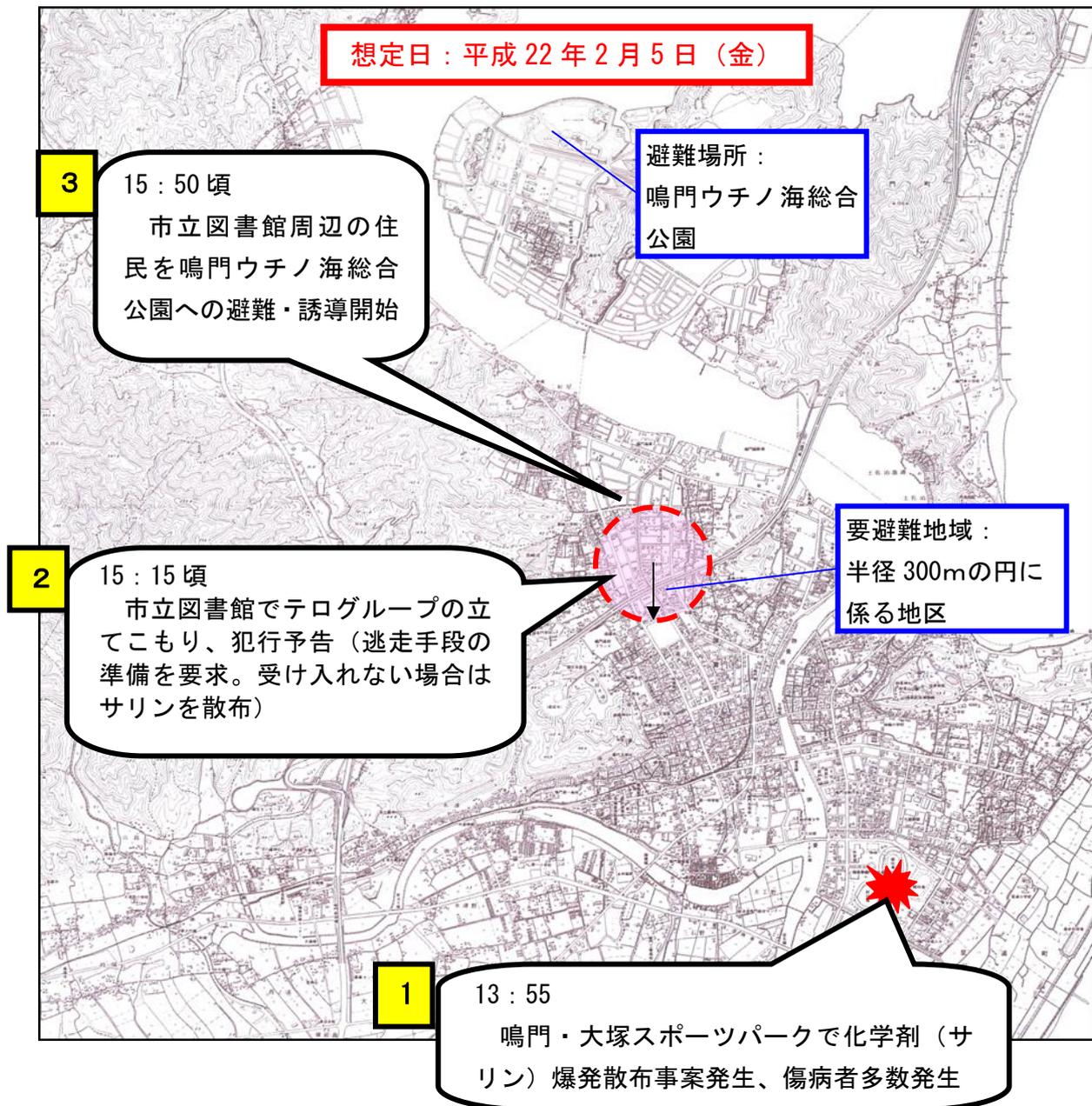
【 図 上 訓 練 （午後） 】

実時間	鳴門・大塚スポーツパーク	鳴門市立図書館周辺～ 鳴門ウチノ海総合公園	健康保険鳴門病院
訓練開始			
9:00	鳴門・大塚スポーツパークで化学剤(サリン)爆発散布発生		
9:30	・現地指揮本部設置 ・検知・ゾーニング ・除染所等設置	【鳴門市立図書館でテログループがサリン散布の犯行予告】 ⇒【避難の指示】※	
10:00	・医療・救護 ・エリア除染	・住民広報(広報車) (右表※※参照)	・傷病者受入開始 ・病院前トリアージ ・除染 ・治療
10:30	訓練終了	【鳴門市立図書館周辺】 ・住民徒歩避難 ・要援護者避難 ・バス避難	傷病者受入完了
11:00		【鳴門ウチノ海総合公園】 ・安否情報 ・健康相談 ・保育園児引渡し ・炊き出し	
11:30			訓練終了
12:00		訓練終了	

実時間	事態の推移	政府の主な動き	徳島県・鳴門市の動き
13:55	・鳴門・大塚スポーツパークで爆発発生		
14:00	・テログループが逃走後に犯行声明を発表	・官邸対策室設置 ・政府要員派遣決定	・県、市第1報受領 ・徳島県、鳴門市災害対策本部設置
14:30			対策本部会議開催
15:00	・科学捜査研究所でサリンと判明 ・図書館に立てこもり、犯行予告		
15:15頃			
15:30	・緊急対処事態認定	・警報発令 ・避難措置の指示 ・救援の指示 ・自衛隊国民保護等派遣	県から「避難の指示」(左表※参照) 緊急対処事態対策本部会議開催
16:00		・総理記者会見	※※ ・住民の避難誘導開始 15:50頃
16:30			合同対策協議会開催(TV会議含む)
17:00	・テログループの身柄拘束		・避難所運営 ・救援の実施
訓練終了			

注：実動訓練の訓練実施時間は、想定である。

図2 訓練想定（図上訓練）



テロの脅威は、大都市だけのものではありません。松本サリン事件のように地方都市においてもテロは発生しています。

今回の徳島県国民保護共同実動訓練のテーマは、「徳島県そして鳴門市の地域特性を活かした国民保護訓練」とし、地方都市において政府が緊急対処事態に認定するような大規模テロが発生した場合に如何に対応していくかを実動訓練の中で検証します。

主な特徴として

1 県内外からの迅速な応援

テロの規模や攻撃方法によっては、救助や救護に必要となる人員、装備、資器材の集結に遅延を来すことが予想されます。また、多数の重症者が発生した場合、地域の医療機関の収容規模を超え、地域外への遠距離搬送をしなければならない傷病者の発生も予想されます。

これらの課題を解決するためには、早期に地域外からの応援を得られる体制を確立することが重要です。特に各機関が大規模にヘリコプターを投入しての医療資源（DMAT、医薬品等）や救援物資の確保そして、重症者のヘリコプターでの遠距離搬送は、地上を移動するのと比較し、遙かに広いエリアからの応援を可能にします。

今回の訓練では、延べ8機のヘリコプターに参加して頂き、より広い地域からの応援体制の早期確立を検証します。

2 地域の防災組織（自主防災会や消防団）との共助

大都市では、隣人同士の関係が希薄となり、自治会（町内会）の活動や消防団の活動などが衰退していく傾向にあります。一方、地方都市ではまだまだ自治会による相互共助や消防団の地域防災意識は高く信頼も厚いものがあります。

これらの方々は、地域に生まれ、育ち、働き、そして互いに理解し、協力しあいながら生活をされる中で、いざとなれば「二軒先のおばあちゃん、歩くのが不自由だ。歩行の介助をしてあげよう。」とか「あその若夫婦は、共働きで昼間は子供だけにいる。しばらくうちで預かってあげよう。」など行政では把握しきれない様々な地域の情報と行動力を持っている方々です。

今回の訓練では、鳴門市に根付いているこの共助の力を避難訓練の中で最大限に発揮して頂き、隣人への避難の呼びかけや避難状況の確認、高齢者や要援護者の方々に対する支援など地域住民の共助の姿を全国に発信する訓練ともしています。

なお、鳴門市自治振興会連合会及び鳴門市自主防災会連絡協議会 200 名、鳴門市消防団 100 名の方々に実動で訓練に参加して頂いています

- 3 ケーブルテレビからの地域への情報の発信（避難実施要領などの情報）
地域に特化した FM 放送やケーブルテレビなどが全国に普及しつつあります。このような情報媒体は主に広域な情報を提供することを目的としたものではなく、特定のエリアに対する情報の発信が目的となっています。被災直後に住民が必要とする情報は、「自分達は避難する必要があるのか？」「避難するのであれば何処にどのような方法で避難すればよいのか？」「負傷してしまったがどこの医療機関にいけば治療が受けられるか？」など、ごく身近な情報を求めています。このようなニーズに迅速丁寧に答えていく方法の一つが地域の情報に特化した FM 放送やケーブルテレビなどとの連携です。

今回の訓練では、地元ケーブルテレビの「テレビ鳴門」の協力を得て事案発生直後から鳴門市と連携し、市民への具体的なメッセージの発信を行っています。

この他にも聴覚障害者の方々などへの携帯メールでの情報の発信など、地域で育ててきた緊急時の対応システムなどを訓練に反映します。

今回の徳島県鳴門市での訓練は、実動部隊の規模だけなら「Number one 訓練」とは言えませんが、まさに地域の特性を最大限に生かした「Only one 訓練」と言え、今後、日本全国の地方都市での国民保護訓練のあり方の指針を示すものです。

MEMO

3 主な訓練の内容

(1) 災害等初動対処、傷病者搬送訓練

ア 場所

鳴門・大塚スポーツパーク

(ポカリスエットスタジアム、ソイジョイ武道館、第2陸上競技場)

イ 時間

9:00～10:30

ウ 概要

【化学剤爆発散布初動対処訓練】

テログループによる化学剤（サリン）爆発散布に伴い、現場において救出・救助、及び医療救護等の訓練を実施する。また、現地調整所を設置し、活動調整や情報共有等の訓練を実施する。

【医療救護訓練】

ポカリスエットスタジアムにおいて暴露し救出された傷病者に対する医療救護訓練を実施する。

【現地医療指揮本部運営訓練】

ポカリスエットスタジアムの救助現場において、現場に到着した医療救護班及びDMATの活動統制訓練を実施する。

【第2陸上競技場における医療要員投入訓練】

医療要員（DMAT）のヘリコプターによる投入訓練を実施する。

【傷病者搬送訓練】

ポカリスエットスタジアムから救助された傷病者の救急車とヘリコプターによる搬送訓練を実施する。

表2 災害等初動対処訓練の流れ

時刻	実動訓練シナリオ
9:00	<ul style="list-style-type: none"> ・テログループの逃走 ・化学剤（サリン）爆発散布、被害発生 ・鳴門市消防本部、県警（NBCテロ対策班）が現場に到着 ・非暴露者の退避誘導 ・鳴門市消防本部、県警による検知、ゾーニングの実施 ・鳴門市消防本部が現場指揮本部を設置 ・県警が現地指揮本部を設置 ・県、鳴門市の連絡員到着、鳴門市による現地調整所設置 ・現場に医師到着、現場医療指揮本部設置 ・近隣応援消防本部到着 ・医療機関の医療救護班、DMAT到着 （一部、ヘリコプターで到着） ・陸上自衛隊の部隊等が到着 ・救出・救助 ・一次トリアージ、除染前医療、除染、二次トリアージ開始 ・第2陸上競技場ヘリポートから徳島県防災ヘリコプター、陸上自衛隊ヘリコプター、大阪府ドクターヘリ、航空自衛隊ヘリコプターによる搬送開始 ・救出活動完了 ・サリン中和作業完了
10:30	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等初動対処訓練終了

図3 訓練会場全体配置図

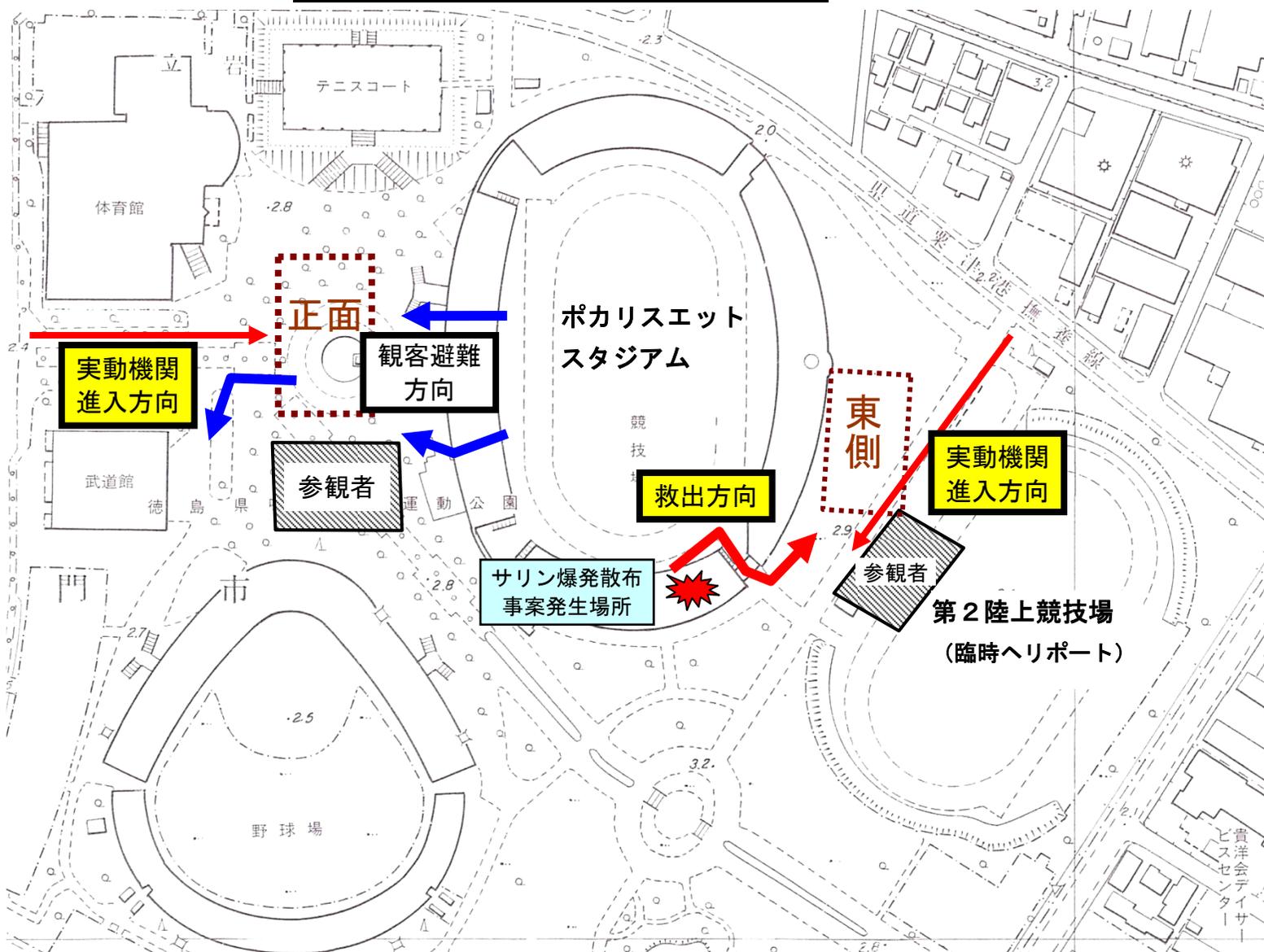
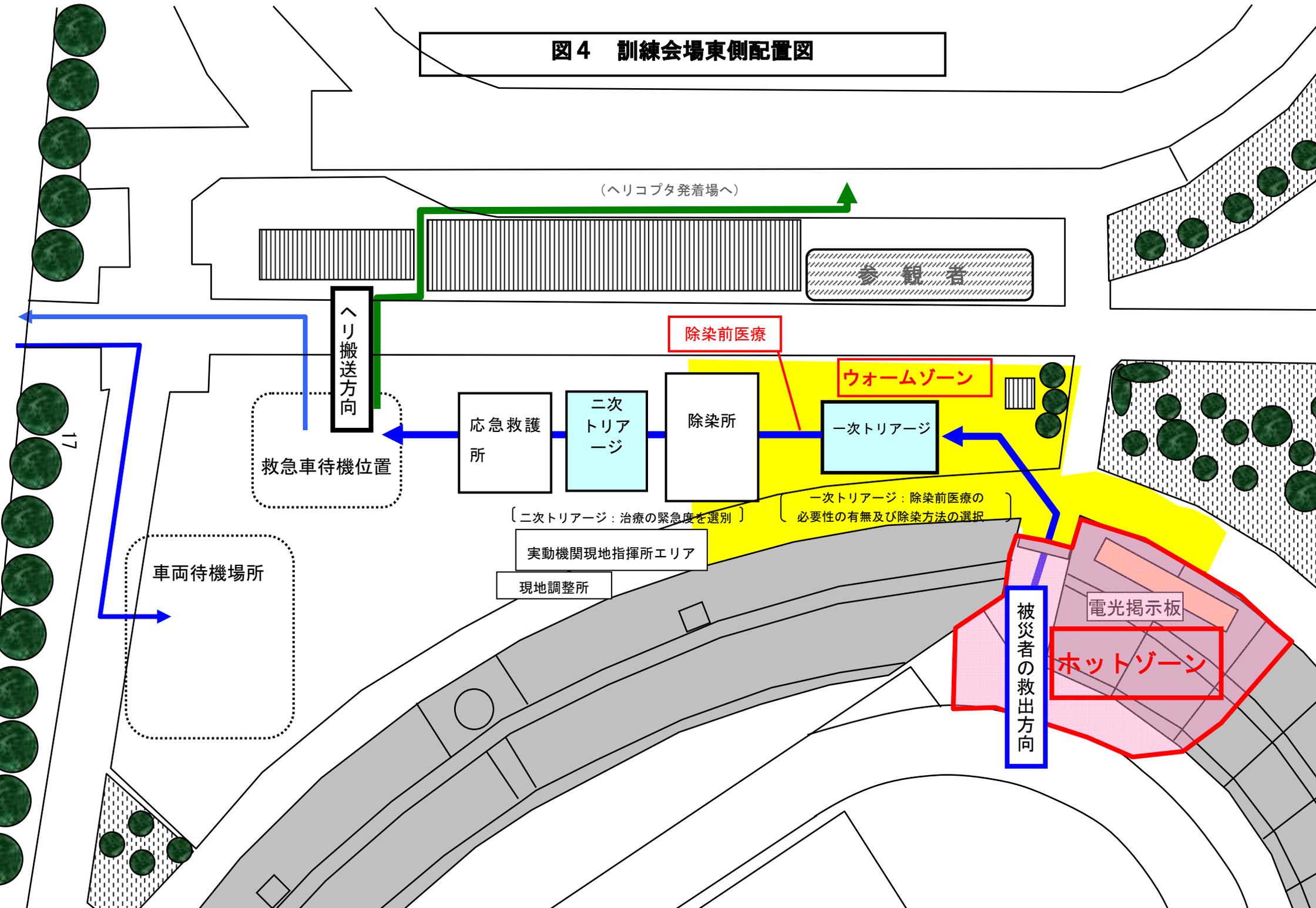


図4 訓練会場東側配置図



「現地調整所」とは

政府が緊急対処事態と認めるような大規模なテロ現場では、二次的攻撃への警戒、傷病者の救護及び避難誘導などを警察、消防、自衛隊、海上保安庁及び医療機関などの各機関が、対応していくこととなります。このような現場で効果的かつ安全な活動を確保するには、各機関が横断的に連携していくことが不可欠です。

「現地調整所」は、この横断的連携が円滑に行われることを目的に設置されるもので、県や市の対策本部とのパイプ役となる現地派遣員（県、市職員）も交え、各機関が情報を持ち寄り、全体の状況を共有しながら、活動や連携の調整を行っていきます。

今回の訓練での「現地調整所」

今回の訓練で「現地調整所」がその役割を特に期待される場面は、以下のとおりです。

- ・ 鳴門・大塚スポーツパーク内のポカリスエットスタジアム東側のゾーニング（化学剤等の汚染状況によるエリア区分）の調整
警察、消防及び医療関係者が持ち寄った情報から、ゾーニングエリアの統一のための調整を行います。
- ・ 現場医療の活動調整
化学剤の汚染地域等で活動する医療チームと警察、消防及び自衛隊が傷病者救護と安全管理の活動調整を行います。



現地調整所の運営 (H20 長野)

いわゆるNBC（Nuclear: 核、Biological: 生物剤、C: Chemical: 化学剤）兵器がテロの手段として使われる場合、それぞれの危険から市民を守る手段のひとつが、除染（健康障害の原因となる物質を除去する事）です。除染では、汚染された服を着替えたり、体に付着した汚染を水で洗い流したりしますが、テロ後、除染のシステムを立ち上げ、被害者の除染を始めるまでには少なくとも30分前後はかかるものと考えられています。

現在、医療は除染後に始まることになっていますので、重症の被害者の治療の開始までにも同じく30分前後要することになります。この治療開始の遅れは国際的に問題となっており、各国で様々な試みが行われています。

今回の訓練では、医療従事者が防護服を着て、現場で除染前に治療行為を行う試みを試験的に行います。具体的には、一刻も早く解毒剤を投与し、輸液路をとり、呼吸の通り道である「気道」を確保して呼吸を補助すること等が行われます。この際の活動の安全管理は、消防機関が行いますが、特に除染前医療では、消防と医療の緊密なる連携が求められます。



除染前医療 (H21 兵庫)

【参考】訓練イメージ（これまでの訓練記録写真による）



関係機関の現場到着 (H21 兵庫)



救助の開始 (H19 千葉)



化学剤の検知 (H19 千葉)



重症者の救出・救助 (H20 長野)



陸上自衛隊の部隊等の到着 (H18 鳥取)



一次除染 (H21 兵庫)



非曝露者の避難誘導 (H20 長野)



エリア除染 (H20 長野)

(2) 傷病者受入れ、医療救護訓練

ア 場所

健康保険鳴門病院

イ 時間

10:00～11:30（鳴門病院における傷病者受入れ、医療救護訓練）

ウ 概要

【傷病者受入れ、医療救護訓練】

鳴門・大塚スポーツパークからの傷病者（想定）に対する病院前トリアージ、除染、治療を実施する。

表3 傷病者受入れ、医療救護訓練の流れ

時間	訓練シナリオ
9:00	（訓練準備）
10:00	・ NBC 汚染傷病者受け入れ訓練開始 ・ 除染前トリアージ、除染（湿式、乾式除染）、除染後トリアージ、治療
11:30	・ 医療救護訓練終了



健康保険 鳴門病院 の概要

災害拠点病院として最新の医療設備と近代的な医療システムで質の高い医療サービスを行い、地域のセンター病院としての役割を果たしている。

- ・ 病床数 307 床
- ・ 職員数 460 名
- ・ 併設施設

健康管理センター
鳴門看護専門学校等

(3) 避難誘導・避難所運営訓練

ア 場所 桑島サッカー場及び鳴門ウチノ海総合公園

イ 時間 10:30~12:00

ウ 概要

家宅（鳴門市立図書館周辺）から一次集合場所（鳴門市桑島サッカー場）まで、住民の徒歩による避難並びに消防団・自主防災組織（自主防災会）と連携した避難誘導を行う。

また、避難所（鳴門ウチノ海総合公園）へのバスによる避難並びに警察、陸上自衛隊によるバスの誘導を行う。

避難所では、避難住民の安否情報の収集、健康相談、保育園児引き渡し、ヘリコプターによる物資輸送、炊き出し訓練等を行う。避難所に隣接するウチノ海では、海上保安庁の船舶による警戒警備を行う。

表4 避難誘導・避難所運営訓練の流れ

時間	訓練シナリオ
	(避難所テント等の設置、鳴門市婦人防火クラブ・陸上自衛隊による炊き出しの準備)
10:00	・住民広報開始
	・避難住民徒歩移動開始（約200人）
	・徒歩移動完了（一次集合場所での集合完了）
10:30	・バス移動開始（警察、陸上自衛隊による誘導）
	・消防団員による要援護者の避難の支援
	・バス移動完了（避難所への集合完了）
	・海上保安部の警戒活動
	・安否情報収集開始
	・健康相談開始
	・保育園児引き渡し
	・救援物資輸送 （海上保安庁ヘリコプター、陸上自衛隊ヘリコプター）
	・炊き出し
12:00	・避難誘導・避難所運営訓練終了

図6 自宅付近から一次避難場所活動図

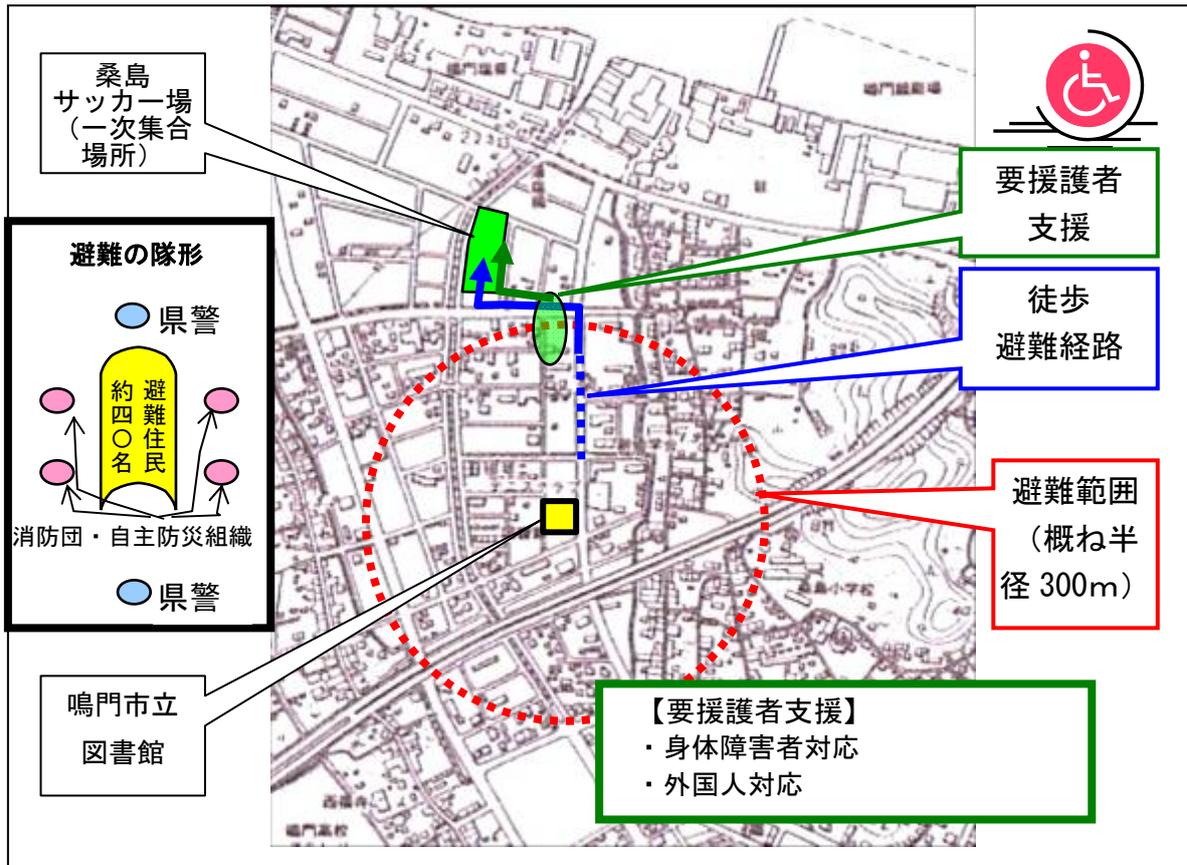


図7 一次集合場所から避難所までの避難活動図

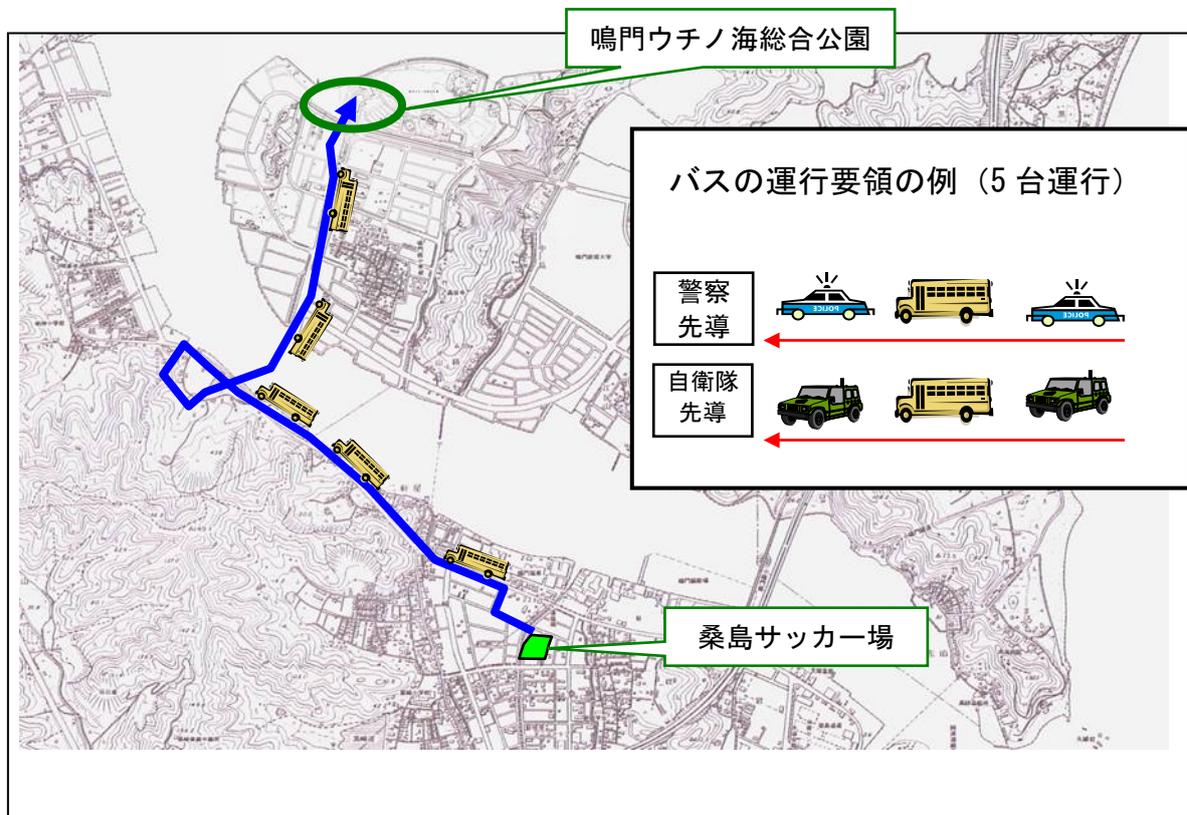
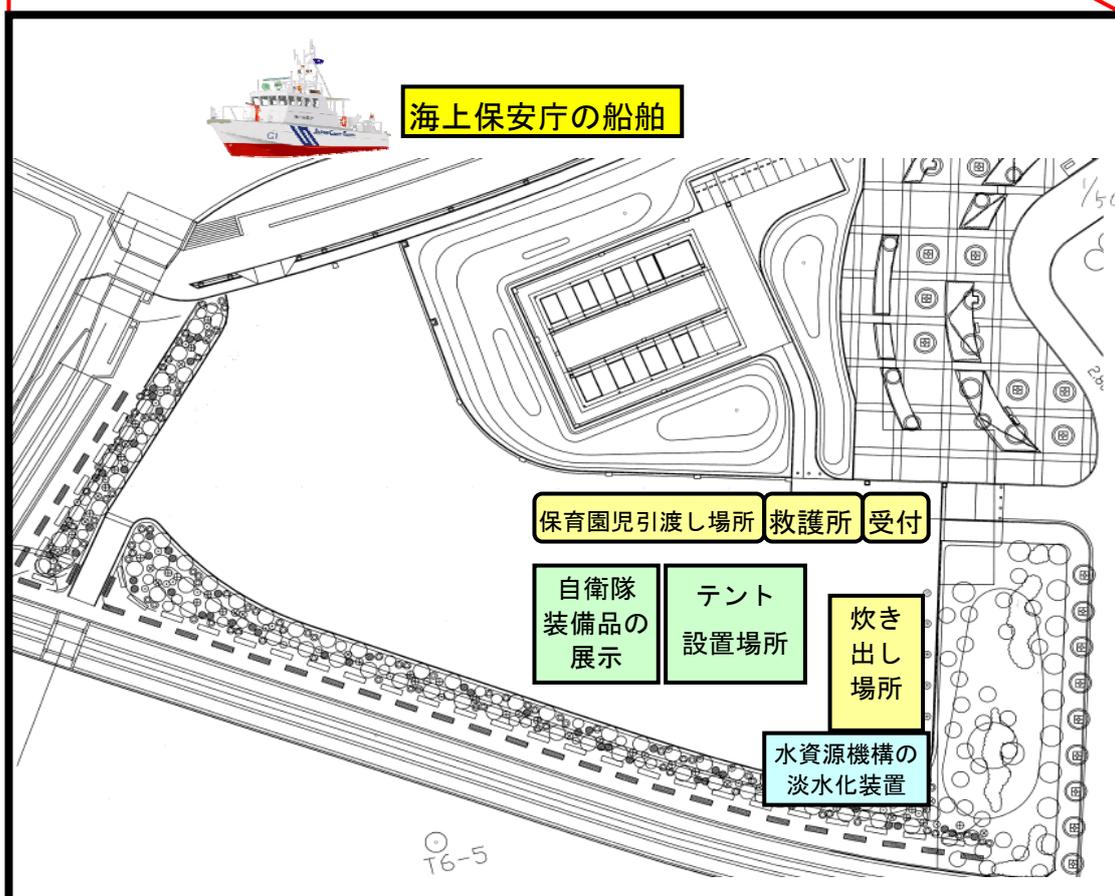


図8 避難所運営訓練活動図



大規模な自然災害や事件・事故が起こった場合、被災者・被害者の身体面での治療行為が必要であることはもちろんですが、近年は、それに加えて、精神面でのフォローの必要性がいられています。

大規模災害が起こると、家族や親しい知人、家財を失うことや、あるいは災害後の生活環境の大きな変化や将来の生活への漠然とした不安が、精神的に大きなストレスとなります。これが原因で、気持ちや体のバランスを崩すことがあります。その多くは一時的なもので、自然に回復します。

しかし、ストレスが長引いたりする場合には、うつ病、パニック発作、PTSD（心的外傷後ストレス障害）などの精神疾患を引き起こすこともあります。災害が起きた直後の被災者・被害者への精神面のフォローとして、これから起こりうる症状とその回復の見通しについて、十分にお知らせすることが重要です。特に、化学剤を用いたテロの場合には、事件後に被災者が分散してしまい、後からフォローに入ることは難しいこともあり、発災直後に、避難所などの現場で情報を流すことが重要と考えられています。

今回の訓練においては、専門家の知見を得て、このようなお知らせを行うためのチラシを作成し、避難所に避難した方に配布します。（右図参照）

今回作成したチラシは一つの試みですが、今後、万一、大規模な災害などが発生した際に、今回の訓練での取組みを参考に、各自治体・各実動機関において、身体的な救出救護だけではなく、被災者のメンタルヘルスにも十分に配慮した取組みが行われることが期待されます。

災害にあわれた皆様へ

- 災害は誰にとっても大きなストレスです。気持ちや体のバランスをくずすことがあります。多くの場合は自然に回復します。心配なことがあっても、ゆっくりと息をしながら、しっかりと行動しましょう。周囲の人と声を掛け合うことも大切です。
- 次のようなことは、普通に見られます。
 - ・眠れない、食欲がない、胃腸の調子が悪い
 - ・ドキドキ、そわそわ、はらはら、する
 - ・疲れやすい、気持ちが落ち込む、やる気が出ない
 - ・涙もろかったり、怒りっぽくなる

など
- 心身の不調をやわらげようとして、カフェイン（コーヒー、紅茶、緑茶など）や、お酒、タバコを増やす人がいます。これらは不安や不眠を悪化させることがあるので、注意が必要です。
- もっと詳しく聞きたいときや、良くならないとき、仕事や家事に影響が出たときには、お気軽にお電話ください。ご家族についての相談でも結構です。

問い合わせ先

徳島県、鳴門市

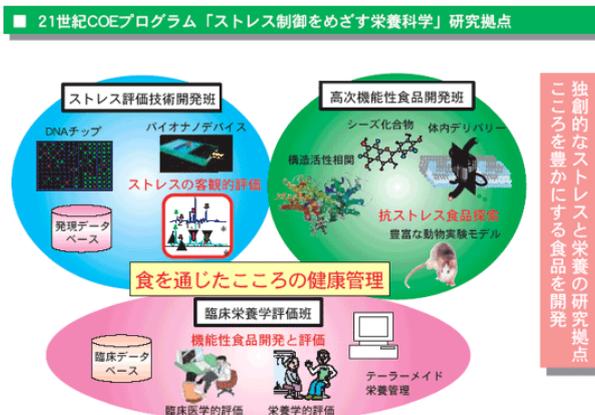
今回の国民保護訓練では、炊き出しに「うずしお鍋」を行います。「うずしお鍋」とは徳島県鳴門市内のイベントの時などに作られる鍋で、サツマイモのブランド「なると金時」やレンコン、激流の鳴門海峡でもまれた鳴門鯛やハマチ、また、エビ、鳴門わかめといった旬の農産物や魚介類など、鳴門の特産物をふんだんに使った味噌仕立ての鍋です。地元徳島の徳島大学医学部では、1967年以來、日本で唯一の医学部栄養学科の臨床栄養学分野として医療に貢献できる栄養学に視点を当てた教育・研究を行ってきました。

なかでも、21世紀COE（center of excellence：卓越した研究拠点）プログラム「ストレス制御をめざす栄養科学」では、栄養学的アプローチからストレス緩和とストレス制御のための研究をされています。

ストレスとは、本来急激な環境変化に対してこころや体を守るための生体反応です。しかしストレスが過度になると、疾病の原因となってしまう、ストレス反応は食欲不振、拒食、過食などの摂食障害を含めた行動心理面に大きな影響を与え、抵抗力の低下や生活習慣病にも発展させてしまう程、深刻な問題です。

そこで、今回の訓練では、「ストレス軽減のための炊き出し」という新しい概念で、21世紀COEプロジェクトのプロジェクトリーダーであられる武田英二教授にこれまでの研究成果をふまえた栄養学的な御監修を頂くことができました。また栄養は一度の食事だけでなく毎日のより適切な食生活の維持、継続が重要です。

このため、今後の食事において県民が留意すべきアドバイスもあわせて提供させていただきます。国民保護訓練は、炊き出しにおいても県民の長期的な健康管理に留意し、県民の皆様にとって役に立つ訓練をめざしています。



（徳島大学ホームページより引用）

【参考】訓練イメージ（これまでの訓練記録写真による）



避難誘導（H20 長野）



避難所に到着する避難住民（H19 静岡）



避難所における安否確認（H19 千葉）



避難所内の様子（H20 長野）



避難所における問診（H20 長野）



炊き出し（H21 兵庫）

4 緊急対応事態対策本部等の 設置運営（図上訓練）

4 緊急対処事態対策本部等の設置運営（図上訓練）

（1）場 所

徳島県庁

（2）時 間

14:00～17:00

（3）概 要

- ・ 政府緊急対処事態対策本部とのTV会議の実施。

【本部設置運営訓練】

徳島県危機管理対策本部、鳴門市災害対策本部の設置・運営訓練

徳島県及び鳴門市緊急対処事態対策本部の設置・運営訓練

【情報伝達訓練】

総理大臣官邸から徳島県庁・県内全市町村への情報伝達訓練を実施する。

【TV会議・合同対策協議会運営訓練（徳島県庁）】

政府、徳島県、鳴門市および関係機関による合同対策協議会を開催する。

- ・ 事態の状況に関する情報共有および緊急対処保護措置に関する協議等の実施。

【参考】訓練イメージ（これまでの訓練記録写真による）



合同対策協議会の状況（H21 兵庫）



官邸とのTV会議（H20 長野）

MEMO

MEMO

MEMO

武力攻撃やテロなどから身を守るために

知っておこう、備えておこう。

内閣官房

国民保護ポータルサイト

<http://www.kokuminhogo.go.jp/>